



## インドの児童労働撲滅に向けて 学校プロジェクトスタート

インドは世界で最も児童労働が多い国であり、1億人以上の子供が働いていると推計されている。多くの子どもたちが学校に行くことも許されず、劣悪な環境のもとで労働に従事している。児童労働の背景には貧困や社会的な制度、慣習など多くの要因がある。

当然、インドの労働組合はこの問題に積極的に取り組んでいる。ILOと協力して意識啓発のためのキャンペーン活動を行ったり、児童労働の実態を調査したりもしている。JILAFもインド労働組合会議（INTUC）とのプロジェクトを実施することで、児童労働の撲滅に向けた取り組みに協力している。具体的にはINTUCからの提案を受けて、アンデラプラデシュ州マーカプールで、児童労働撲滅のための非正規学校プロジェクトをスタートさせた。

マーカプールは、南インドのチェンナイから海岸沿いに300Kmほど北上し、そこから内陸に車で2時間程度走ったところに位置する小さなまちである。周辺にはタバコや綿花の畑が広がる農村地帯であり、採石場が広がっている。その採石現場で多くの子どもが非常に安い賃金での労働に従事している。出来高払いで、採石したものを運搬したり、小さく切ったりといった仕事をしている。採石現場は深く切り立った崖で、そこでの労働は非常に危険であり、粉塵などによる肺や気管支の病気も発生している。この他にもマーカプール

では、貧困が原因で家事労働や屑拾いなどに従事している子どもが多く、これらの子どもたちは学校にも行かず、教育の機会を奪われているのが現状である。

そこで、まずは子どもたちに教育の機会を提供しようと、マーカプールに2004年9月に非正規学校を開校した。3年間のカリキュラムで、小学校卒業程度の教育を施すことにしている。基礎教育の機会を提供することで、子どもを児童労働の現場から引き離すことを目的としている。また、労働組合が運営する学校であることから、広く社会問題や自分たちの権利についても学べるように特色あるカリキュラムを採用している。第1期生として、現在7歳から10歳までの82名がここで学んでいる。運営状況のモニタリングを行ったが、子どもたちはとても楽しそうに授業を受けていた。授業は9時から4時までで、昼休みには給食を提供している。

JILAFの学校プロジェクトは、とても小規模のものであり、インドの児童労働を撲滅するには十分でないことは明らかである。しかし、私たちは草の根レベルでのプロジェクトが重要であると信じている。わずかな人数とはいえ、教育の機会を提供できることはもちろん、プロジェクトが周辺への波及



効果を持つことを期待している。現に、開校にあたって、地元の労働組合が果たした役割は大きい。採石産業の労働者を集めて児童労働に関する意識啓発のための集会を何度も開き、学校がスタートした後も、機会を見つけて家庭訪問を行い、教育の重要性を訴えている。こうした取り組みにより、地域社会の中で、行政を含めて多くの住民の児童労働に関する意識が変化していくことを期待している。幸いなことに、地元の労働組合をはじめ、レディーINTUC会長も、とても熱心である。JILAFとしても、INTUCと緊密に連携を取りながら、今後もプロジェクトの成功に向けて努力を続けることにしたい。

最後に、このプロジェクトに対し理解と協力を頂いている各組織、特に、2004年度の活動にご支援頂いた自動車総連、トヨタ労組、東京電力労組の皆様へ感謝の意を申し上げます。

# 女性労組研修チームが来日

## 日本の女性労組リーダーと交流

招聘事業では、2004年10月21日～11月3日の期間、招聘チームの中で唯一女性のみで構成される女性労組研修チームを招聘した。今年度のチームは中国、韓国、インドより各2名、マレーシア、スリランカから各1名の計8名で構成された。女性労組研修チームは、毎年連合中央女性集会の時期にあわせて来日し、集会を傍聴しているが、今年度も同様に10月26日に東京ビッグサイトで開催された連合中央女性集会に参加した。今回参加者は「経済のグローバル化の中の女性 - デイセント・ワークの取り組みの交流 - 」と題された分科会にて各国の労働組合のデイセント・ワークへの取り組みについて発表を行い、日本の参加者たちと意見交換を行った。参加者は、日本の女性労組リーダーたちの熱気ある討論や積極的な姿勢を目の当たりにし、強い刺激を受けたようであった。

その他のプログラムでは、通常のチームと同様JILAFでの労

働講義や厚生労働省、連合本部、地方連合（連合京都）への訪問を行い、育児・保育制度や、連合の女性参画の取り組み、セクシャルハ



連合中央女性集会の分科会で発表を行う参加者たち

ラスメントの問題について熱心に耳を傾け、情報を交換した。

日本の女性労組リーダーとの交流で固めた労働運動への新たな決意と、各プログラムで学んだ貴重な経験を生かし、今回の参加者たちが自国の女性のために働く女性労組リーダーとして活躍していくことを心から期待したい。

# ベトナムでPOSITIVEを開始

## ハノイ、ホーチミンで50名のトレーナーが誕生

JILAFはVGCL(ベトナム労働総同盟)の要請を受けてPOSITIVEプログラムを本格的に導入した。このプログラムは、既にパキスタンなど7カ国で導入されて今回で8カ国目となる。

ベトナムでは、1986年の「ドイモイ政策」導入以降市場経済化が進み高い経済成長を実現する一方で労災件数・労災に伴う死亡者数が増加している。POSITIVE導入により労働者の意識向上、リスク要因の減少、職場環境の改善を進めることが狙いである。

今回は、ホーチミン(11月1日～4日)、ハノイ(11月8日～11日)の2都市でコアトレーナーを育てるべくPOSITIVE導入セミナー開催した。セミナーには計50名の様々な民間企



ハノイ市セミナーにて

業で活躍する労働安全衛生担当者が集まった。セミナーは通常のプログラムをもとにゲームも取り入れながら実施され

た。チェックリストエクササイズは、計量器製造工場、扇風機製造工場で実施。「良い事例」と「改善すべき事例」を収集することができた。こうして集められた現地の事例をもとに参加者は主体的にグループディスカッション、プレゼンテーションを行い低コストでできる改善について学ぶことができた。最終日には訪問工場の経営者に向けて「良かった点」と「改善点」について多くの提案がなされた。経営者からは、「今後の安全衛生活動に大いに生かしていきたい」とのコメントがあった。また、参加者たちはアクションプランを策定し、今後各々の職場で展開する自主的な活動について発表した。クロージングセレモニーではVGCL労働安全衛生部長Do Minh Nghia氏から「今後も労働災害は増えていこう。参加型セミナーはベトナムの風土に合っている。今後も色々と日本の経験を教えて欲しい」とのコメントがありPOSITIVEプログラムを非常に評価していた。

今回のセミナーは、多くの方々の協力を得て満足のいく結果が得られた。今後はVGCL労働安全衛生部、国際部と協力しながら今回育った計50名のPOSITIVEトレーナーの活動をフォローするとともに、今回供与したOHPも有効に活用しながら更なる展開を図っていききたいと思う。

## 回廊

## 国際労働運動は途上国の味方



吉田 昌哉

## PROFILE

ICFTU本部（在ブリュッセル）雇用・国際労働基準局上級政策顧問  
日本労働協会（現労働政策研究研修機構）、ILO（ジュネーブ）本部、ILO国際研修（トリノ）センター、連合本部を経て、01年4月より現職。

昨年6月、独経済労働省が主催した会議に、パネリストとして招かれた。テーマは、「成長と雇用のための政策」。こちらの主張は、「安定した質の高い雇用は成長の副産物ではなく、あらゆる公共政策の中核であるべき。実質賃金の着実な伸びは、成長の不可欠要素である」というもの。対する独使用者連盟の役員は、「教育訓練コストや社会保障費などを切り下げるため、政府は労働市場をさらに弾力化してくべき。企業の成長があってこそ、雇用を創出し労働条件を改善することができる」と短期利益追求型の典型的な企業論理を展開。これには、私が反論するまでもなく、途上国政府が嘸み付いた。

80年代90年代と途上国政府は、安い労働力と低い社会基準を売り物に、グローバル市場での生き残りを画策した。それが、97年のアジア金融危機あたりから、どうも違うんじ

やないかと気がつきだした。先進国、大企業ばかりが、グローバル化の利益をさらっていく。貿易や投資が真に雇用を創出し、賃金・労働条件を向上していくメカニズムを構築することによってのみグローバル化の恩恵を享受できるのではない、と。

ICFTUの世界大会で採択された決議の一つ「グローバル化、ディセントワーク及び持続可能な開発」では、貿易ルールの中に雇用や労働基本権といった社会的次元を強化していくため、先進国に有利な貿易ルール作りに反対する途上国政府（G20）との連携を築いていくことを提案している。その場合重要になってくるのが、途上国労組が国内および国際レベルで政策に参加する能力をさらに向上していくことである。JILAFの一層の活躍が期待される。

## 第9回国際活動家養成コース始まる 第8回研修生は、10名が修了

本コースの目的は、国際活動の基礎となる英語力を身につけるとともに、国際活動の実務や国内・国際の労働運動についての知識を習得し、将来、労働関係の国際分野で活躍できる人材を育成することです。このコースのために特別に開発された教材による英語研修や労働講義、国際産業別組織（GUF）への組織訪問などで構成されています。

今年度で9回目を迎えた国際活動家養成コースの開講式が11月8日に行なわれました。今回の受講者は連合から谷康子さん、若月利之さん、自治労から蓮見牧子さん、全郵政から福島美佳さん、連合総研から松尾浩明さん、そしてJILAFからは初沢幹さん（労働政策研究・研修機構）元林稔博さん（情報労連）の計7名。前回までに合計70名の方が修了され、その中にはICFTU・GUF・在外日本大使館などで多くの方が現在も活躍されています。なお、第8回の修了式は昨年10月に行われ、10名の方が修了されました。

本コースは約1年間のスケジュールですが、研修日はもとより、自己学習時間の確保も大切で、研修期間中は派遣元組織の理解や協力が重要なポイントとなっています。連合をはじめ、各産別のご協力を今後ともよろしくお願いいたします。



# ICFTU世界大会でJILAF紹介展示

ICFTU第18回世界大会が昨年12月5日から6日間、宮崎市で開催され、世界の152カ国233の加盟組織を中心に、国外から約800人、国内約600人の労働組合リーダーが一同に会した。アジアで初めて開催された今回の世界大会は国際労連(WCL)との統合など国際労働組合運動の将来の方向性、運動の目標を決議し、成功裡に終了した。

国際労働財団(JILAF)は大会会場の一角にJILAFを紹介し、



世界各国の労働組合の問合せに応じる展示ブースを設置した。展示ブースにはJILAFが支援する国の世界地図を張り出

し、また招聘事業や現地支援事業などを紹介する写真パネルを展示し、英語、仏語を中心にしながらも10数カ国語でJILAFを紹介するパンフレットを配布した。

過去にJILAFの招聘で日本を訪問した者、ないしは訪問した者の関係者だという者が多数訪れた。併せて未だ招聘されていない組織の関係者も多数が訪れ、将来の招聘の要請をおこなった。

またJILAFが現地支援事業を実施している組織のほとんどすべての関係者がブースを訪れ、その中で次年度の計画などについてJILAFの担当者と打合せを行うことができた。

ICFTU事務局が作成した世界大会時の広報紙「デイリー・ブリテン」の初日にはJILAFの概要と展示されている写真などを紹介する記事が掲載された。

今回の世界大会に参加したほとんどの組織の関係者がJILAF展示ブースを訪問し、世界の労働組合にJILAFを紹介するまたとない機会となった。

## モンゴル社会福祉労働大臣らがJILAFを訪問

去る12月17日、外務省の招聘事業で来日中だったモンゴル社会福祉労働省のバヤルサイハン大臣、バトジャルガル在日モンゴル特命全権大使、ツォグトバートル労働福祉サービス庁副長官らがJILAFを訪問した。これまでJILAFは招聘事業において、モンゴルから40名余りの若手労組リーダーを招聘し、現地支援事業においては労使関係セミナーやPOSITIVEセミナーを開催している。一行はJILAFに謝意を表するとともに、今後は現地ナショナルセンターのCMTUとより緊密に連携を取りながら、政府としてもJILAFの事業展開に積極的に協

力していきたいと抱負を語った。

大臣らがとりわけ関心を示したのは児童労働撲滅である。モンゴルでは牧畜や鉱山労働の場で子どもが幼いうちから働く実態がある。また労働関係法規の改正を睨み、国際的な視点から研究している最中でもある。現政府が掲げている4カ年計画(2005年~2008年)には「政務使の密接な意見交換」も含まれている。今後、モンゴルでJILAFが果たすべき役割はますます大きくなっていく。

### JILAFカレンダー

(2004年12月~2005年2月)

#### 招聘

アジア労組研修チーム	12月4日~12月11日
北米チーム	1月18日~1月27日
ロシア・NISチーム	1月27日~2月9日
南米チーム	2月9日~2月22日

#### 現地支援

ネパールNTUC POSITIVEセミナー・学校モニタリング	
2004年12月15日~12月24日	カトマンズ/モラン/スンサリ
インドネシアITUC 労組機構セミナー	
2004年12月19日~24日	ジャカルタ/ボゴール
モンゴルCMTU POSITIVE全国会議	
2004年12月22日~12月26日	ウランバートル
中国ACFTU POSITIVEフォローアップ会議	
2005年1月15日~1月22日	浙江省金華市
インドINTUC 学校プロジェクトモニタリング	
2005年1月29日~2月1日	マーカプル/カトマンズ

ザンビアZCTU HIV/AIDS全国セミナー	ルサカ
2005年2月4日~2月18日	
タイTWFT/TWARO ワークショップ	
パキスタンAPFTU/APFOL POSITIVEセミナー	
タイUNI-TLC/UNI-LCJ ワークショップ	
2005年1月21日~2月8日	バンコク/ラホール/イスラマバード/アユタヤ

#### その他

第2回国際労働問題研究会「経済のグローバル化と国際労働運動の直面する諸課題」	
2004年12月21日	JILAF会議室
産業雇用問題等受託研究「情報サービス業における雇用管理」	
2005年1月4日~1月13日	フランス・エクサンプロバンス
国際フォーラム「北米労働運動の挑戦」	
2005年1月21日	東京・総評会館

